

## 北海道上ノ国高等学校

課程 全日制  
学科 普通科  
生徒数 86名

### 1 取組の特徴

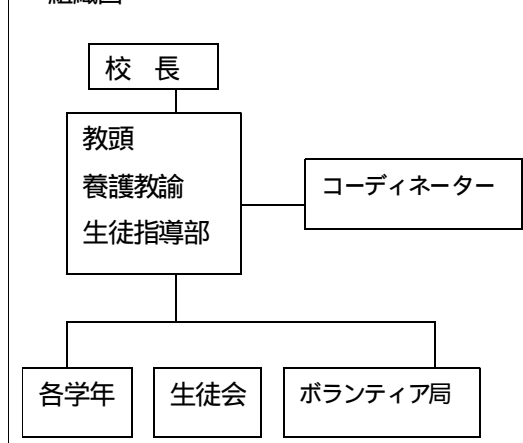
- ・各学年におけるコミュニケーションスキルトレーニングを推進するとともに、生徒の対人適応能力の育成の充実を図るボランティア活動に取り組む。
- ・地域社会や小・中学校と連携したボランティア活動により、生徒のコミュニケーション能力、自己理解能力、他者理解能力及び共感力の向上を図る。
- ・教員のカウンセリング能力の向上を図り、「全教員による」教育相談を推進する。

### 2 取組のねらい

「アセス」の調査結果を活用し、教員による個別相談の充実を図った。今年度は、子ども理解支援ツール「ほっと」の結果についても様々な指導に生かしている。そのために、生徒同士がお互いに認め合うことができる機会を授業やHRにおいて意識的に設けるようにした。結果として、人間関係の広がりや学校に対する安心感、自己理解力が深められ、望ましい人間関係づくりの進展と学校不適應の未然防止が図られた。

今年度は生徒が更に自己理解・他者理解を深め対人適応能力や社会性の更なる改善を図り、学校や地域での心地よい関係づくりを進めて行く。

組織図



### 3 取組の経過

- 4月 学校環境適応尺度「アセス」の実施（全学年対象）  
全校クリーン作戦（全校生徒による学校周辺のボランティア清掃）
- 5月 コミュニケーションスキルアップ活動（全校生徒対象）  
コミュニケーションスキルアップ活動（1学年対象）
- 6月 コミュニケーションスキルアップ活動（2学年対象）  
発達支援ボランティア活動（ボランティア局による小学生との交流）
- 7月 コミュニケーションスキルアップ活動（3学年対象）
- 9月 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施（2学年）  
コミュニケーションスキルアップ活動（3学年対象）  
コミュニケーションスキルアップ活動（生徒会執行部、ボランティア局対象）
- 10月 「本物の森再生植樹祭」（全校生徒有志）  
コミュニケーションスキルアップ活動（1学年対象）  
「交通安全キャンペーン」（生徒会執行部、ボランティア局による小・中・高合同活動）  
上ノ国町高齢者スポーツ大会ボランティア（ボランティア局）
- 11月 コミュニケーションスキルアップ活動（2学年対象）
- 12月 「喫煙防止出前授業」（ボランティア局による小学生へのピア・サポート活動）  
コミュニケーションスキルアップ活動（全校生徒対象）  
学校環境適応尺度「アセス」の実施（全学年対象）

12月 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施（全学年対象）  
「高齢者あての年賀状作成」(ボランティア局による活動)

## 4 取組の内容

### 1 コミュニケーションスキルアップ活動

- (1) 日 時 12月17日(月)
- (2) 対 象 全校生徒
- (3) ねらい 各学年で行った対人適応力育成と自己表現力育成の取組の共有を図るとともに、自己表現を含むコミュニケーション能力の大切さを学ぶ。
- (4) 内 容 今までの取組の意義について確認するとともに、コミュニケーションにおける様々な法則や個の多様性についての講話と自己表現のための演習を行う。
- (5) 成 果 コミュニケーションはなぜ大事なのかを理論的に説明することにより、日常の行動やその後実施される進路面接の時などにおいて実践的に活用できると好評だった。



### 2 子ども理解支援ツール「ほっと」の実施

- (1) 日 時 12月17日(月)
- (2) 結果の概要
  - <1 学年>「仲間作り」、「ルールやモラル」、「相談」の項目以外、全道平均を下回っている。
  - <2 学年>「緊張」の項目以外、すべて全道平均を上回った数値であった。
  - <3 学年>「緊張」の項目以外、すべて全道平均を上回った数値であった。入学当初から落ち着いた学年であり、「思いやり」の項目の数値が高いことが特徴と思われる。

## 5 次年度に向けて

### 1 成果

#### (1) 保健室利用状況

	21年度	22年度	23年度
延べ利用者数 (在籍者数)	930人 (87人)	677人 (87人)	687人 (91人)

在籍者数に対する延べ利用者数の比率が年々減り、落ち着いた学校生活となっている。

#### (2) 生徒による学校評価

評 価 事 項	21年度	22年度	23年度
生活や進路などの悩みについて、先生方は十分に話を聞いてくれる。	63.5%	74.0%	86.7%
敬語など、言葉を適切に使えるようになってきた。	57.1%	69.9%	81.1%
異校種との交流を通し、相手の気持ちを思いやるなど、心が豊かになった。	60.7%	69.4%	84.4%

教師の道徳教育への意識の高まりとともに、生徒の自己肯定感や他者への関心の高まりがみられた。

### 2 課題及び次年度に向けて

自己理解や他者理解あるいは個々の多様性があるということは、繰り返し活動の中で触られているので、知識としての理解は深まっていると思われる。しかし、日常的・恒常的に行動化するということが十分にできているとは言い難い。そのため、全ての生徒が日常的に行動化されるための実践を、次年度は意識的に増やす必要があると考えられる。